

1

特集 美容皮膚科と漢方

美容皮膚科と漢方

野本真由美

野本真由美スキンケアクリニック 総院長, 野本真由美クリニック銀座 院長

美容皮膚科では顔の色調について、「赤色」あるいは「茶色」の悩みが寄せられることが多い。スキンケア・メイク指導、外用療法、レーザー・光治療などの治療を行っても改善が難しいのは、「茶色」より「赤色」の色調改善である。顔の赤みの改善が西洋医学では困難なとき、日本の伝統医学である漢方医学が役立つことがある。痤瘡、酒さ、アトピー性皮膚炎に対する漢方薬については後の章で各々のプロフェッショナルに詳しく解説していただくが、ここでは実臨床にすぐに生かせることを目的に、「顔の赤み」の解決方法を5つに分類して紹介する。

はじめに

アトピー性皮膚炎や酒さ、尋常性痤瘡など、慢性炎症性疾患に伴う顔面の赤みは臨床上、治療が難しい分野である。西洋医学では、原因を特定し、それを取り除いて解決することが得意であり、この方法で解決できるのが最も早い解決方法である。しかし一方で、体質や年齢が関与した顔の赤みの解決策は、西洋医学的アプローチだけでは難しいことも多い。そのような場合、日本の伝統医学である漢方医学を併用するという方法がある。この章では、疾患名にかかわらず「顔の赤み」に対応できる5つの分類を紹介する。

漢方医学からみた
赤ら顔の治療アプローチ

熱感・炎症を改善する～清熱剤～

顔面に生じた紅色丘疹や膿疱を改善する方法は西洋医学にもあるが、顔面のびまん性紅潮や熱感(ほてり)を改善することは難しく、そのような場合は漢方薬を併用するとよい。漢方医学では熱感や炎症などを伴う病態を「熱証」と呼び、これに対しては「清熱剤」という消炎・解熱作用を持つ漢方薬を用いる。

清熱剤として、紅潮と熱感が主な場合は黄連解毒湯、加えて皮膚の乾燥感と口喝(口の乾き)を伴う場合は白虎加入参湯¹⁾、浮腫がみられるときは越婢加朮湯を用い

るとよい。

尋常性痤瘡など丘疹や膿疱を伴う場合には荊芥連翹湯^{ケイガイレンギョウトウ}や清上防風湯^{セイジョウボウフウトウ}、深い膿瘍形成には排膿散及湯^{ハインノウサンキョウトウ}を用いる。皮膚のバリア機能の低下や皮膚炎を伴う痤瘡にはジュウミハイドクトウ^{ジュウミハイドクトウ}十味敗毒湯を使用するとよい。

微小循環障害・毛細血管拡張を改善する
～駆瘀血剤～

顔面は血流が豊富な部位であるが、同時に血流停滞も生じやすい。血流停滞に伴う血管拡張を改善させるために、保険外診療でレーザーや光治療を行うことも多い。漢方医学ではこのような微小循環障害を「瘀血^{オケツ}」と呼び、これを解決する漢方薬を「駆瘀血剤」という。顔面の紅潮は前述した清熱剤でもある程度の改善が見込めるが、それでも改善しない場合には瘀血の存在を疑うとよい。とくに慢性炎症性皮膚疾患は瘀血を生じやすいため、慢性に経過した赤ら顔には駆瘀血剤がよく用いられる²⁾。

代表処方^{ケイシブクリョウガン}は桂枝茯苓丸であるが、皮膚科領域では痤瘡に保険適応のある桂枝茯苓丸加意苡仁^{ケイシブクリョウガンカヨクイニン}を使用することも多い。また瘀血に「氣逆^{キギャク}」を伴う場合は、加味逍遙散^{カミショウヨウサン}を用いるほうがよい。氣逆とは漢方医学の3つの物差しである「気・血・水」のうち気(生命エネルギー)が逆流して顔面のある上方へ向かい、顔のほてり、かゆみ、多汗、イライラなどを生じることをいう³⁾。顔面の診察を行うことの多い美容皮膚科医はこの氣逆の所見を見落とさないことが大切である。その他、浮腫や貧血を伴う場合は当帰芍薬散^{トウキシャクヤクサン}、手が荒れやすく、排卵障害を伴う場合は温経湯^{ウンケイトウ}を使用する。

自律神経の乱れ(ストレス)を改善する
～柴胡剤～

顔面の赤みを訴える患者は10年前より確実に増えてい

ると感じる。しかも難治性で重症度が増していることが多い。この要因の1つに、生活習慣の乱れや心理的ストレスによる自律神経バランスの乱れが考えられる⁴⁾。漢方医学には、柴胡を含む「柴胡剤」を用いて患者の自律神経バランスを整える方法がある。実際に、江戸時代の名医の多くが柴胡剤を使用して難病を治していたという口訣がある。有名な柴胡剤の1つに、補中益気湯^{ホチュウエツキトウ}がある。補中益気湯は疲労・倦怠感を感じやすい虚弱体質を改善する補剤であるが、難治性のアトピー性皮膚炎に対する改善効果があることが二重盲検試験で確認されている⁵⁾。補中益気湯には皮膚炎を強く抑制する生薬は配合されていないが、アトピー性皮膚炎の患者はかゆみのストレスで自律神経のバランスが乱れやすいことは容易に想像できる。また、ストレスが関与したフェイスラインの難治性痤瘡やその後の肥厚性癬痕、ケロイド形成の治療には、柴苓湯^{サイレイトウ}を用いるとよい⁶⁾。

他に、更年期の女性で急に化粧品が合わなくなったり、顔の湿疹を繰り返し、不安や不眠を伴ったりするような場合には、加味帰脾湯^{カミキヒトウ}を用いるとよい。前述した十味敗毒湯や加味逍遙散も柴胡剤であるため、ストレスマネジメントが必要な場合にも選択しやすい。

乾燥肌を改善する～血虚の改善～

皮膚が乾燥しやすく、爪が脆弱、髪が細いなどの症状は、漢方医学では「気・血・水」の血(血液や栄養物質)の不足である「血虚^{ケツキョ}」と考える。

アトピー性皮膚炎や更年期の赤ら顔の原因の1つに、皮膚の乾燥がある。ほてりを伴うと清熱剤を処方したくなるが、奏功しない場合は血虚の治療を考える。スキンケア指導で乾燥対策を十分行ったうえで、四物湯^{シモツトウ}、温清飲^{ウンセイイン}、当帰芍薬散などを用いるとよい。